

【作品タイトル】 世界に誇れる二つのコジェネレーション（全世代間交流と熱・発電エネルギー利用）

～マク・オマ・ナイ冬季五輪への再挑戦～

2014.6.16

【アピールポイント】

1 真駒内のバックグラウンド

真駒内の語源は、アイヌ語地名で「マク・オマ・ナイ」の真駒内川に由来し、豊平川、真駒内川と桜山や柏丘の丘陵に囲まれ優れた環境を有する地域である。

現在の真駒内の後背地は、桜山（保安林）、自衛隊の駐屯地・弾薬庫に囲まれ、土地利用に当たって制約はあるものの道営団地区画整理事業として宅地開発を行ったことから、道立公園、道警官舎等の道有地、公団住宅用地、少子化に伴う廃小学校用地等の公有地が多い地域である。

将来の土地利用計画再編の2大視点として、①冬季五輪誘致を見据え、②世界に誇れる低炭素社会の実現と全世代間交流型社会の二つのコジェネレーションを実現するため、これら関係者の理解協力が不可欠である。

2 新交通システム導入と複合的な交通ターミナルの建設

(1) 道警 AP（幸町3丁目）道有地の移管を受け複合的な交通ターミナルの建設により、人と車の効率的な動線を確保し、環境に優しい本格的なパークアンドライドシステムを導入する。

(2) 既存道路活用の新交通システムを導入し、真駒内駅を起点に柏丘、石山陸橋、藻南公園、南沢、中ノ沢、北ノ沢、真駒内競技場、本町4丁目、終点高速電車車両基地（東町2丁目）を結ぶ真駒内八垂別ループモノレールを建設し、冬季五輪等のイベントや市民の移動時間の短縮を図る。（終点自衛隊前駅がベスト基地内は閉鎖シエルト）

(3) 複合交通ターミナルは、PFI、信託等の民活方式とし駅前交番、駐車駐輪場、医療福祉・商業施設を設ける。

3 真駒内駅前周辺のまちづくり

(1) 真駒内中学校、南区役所、旧真駒内緑小学校の再開発エリアは、世代を超えた交流の先駆的なコジェネレーションモデルとして、周産期医療・子育て・障がい児の支援、いじめ相談、生涯教育等のワンストップサービスを行うため、市立大サテライト、児童相談、特別支援教育、南保健センター等の一部機能を集約する

(2) 旧真駒内小学校の高等養護支援校の開設に併せ、子育て支援センター、地域包括支援センター等を整備する。

(3) 道警 AP（上町5丁目）の道有地、UR 五輪団地は、高齢者・障がい者ケアつき住宅、単身世帯入居住宅、一般住宅等をユニバーサルデザインによる全世代間交流型の住空間として再整備するよう関係者に要請する。

(4) 道立真駒内公園を冬季五輪メイン会場、また、青少年会館を同公園に移設し五輪選手村として一時利用するなど、再整備に当たってのマスタープランを作成し、組織委員会及び国、北海道に要請する。（旧会館敷地は公園化）

(5) 南消防署、南保健センター、NTT 東日本真駒内ビル（幸町1丁目）エリアを再開発し、冬季五輪を見据えたプレスセンターとして一時利用の後、まちづくり支援、健康づくり、ソーシャルビジネス・インキュベーター機能を備えた施設とする。

(6) 南消防署は、エドウィン・ダン記念公園内に移転整備し、高度な防災機能を備えた施設とする。

(7) 駒岡清掃工場の施設更新後の廃熱利用策として、真駒内地区の新改築施設の暖房は、全て利用対象とする他、発電能力を高めるなど高度なエネルギーのコジェネレーションシステムを再構築する。また、保養センター駒岡は、全面改築し冬季五輪選手村として一時利用の後、市民の保養施設とする。

(8) 可能であれば自衛隊真駒内駐屯地の一部（現自動車運転試験場・曙4丁目と上町5丁目の北側）は、冬季五輪村として活用できるよう国及びUR 都市機構に要請する。（市有地との交換を含め）

4 その他

(1) 南区は、高速道路へのアクセスが悪いため滝野経由高規格道路を建設し北広島インター乗り入れを改善する。

(2) 豊平川の左岸通、右岸通は、道立真駒内公園（五輪通）まで延長するよう関係機関に要請する。

(3) 真駒内通と五輪通の交差点（上町1丁目・曙町2丁目）は、真駒内通側をアンダーパス化する。

(4) 真駒内公園と対岸の藻南公園を結ぶ人専用吊り橋及び西岡・紅桜公園、桜山ルートのカットパスを整備する。